

連環型地域産業政策シンポジウム

—大阪圏集積をパワーアップする—

Symposium:

New Perspective on Regional Industrial Policy

Upgrading the Concentration in the Osaka Metro Area

2009年9月4日(金)午後1:30～5:30、「大阪市立大学大都市圏産業政策研究会」(世話人:立見淳哉(創造都市研究科准教授)、本多哲夫(経営学研究科准教授)、長尾謙吉(経済学研究科准教授))は都市研究プラザにおいて「連環型地域産業政策シンポジウム～大阪圏集積をパワーアップする～」を開催した(共催:都市研究プラザ)。「連環型」とは、大阪大都市圏の産業集積を1つの有機的なまとまりとしてとらえ、農・工・商・サービス業といった産業間の「連環」、およびそれらを支援する行政・経済団体間の「連環」をつくることによって、大阪大都市圏に集積する産業活力を引き出そうとする視点である。

シンポジウムとポスターセッションで構成されたこの集いには、行政職員と研究者を中心に65人が参加し、自治体が発している産業政策の実態や課題、それを踏まえたトータルビジョンづくりに向けた動き等について、熱心な討論と交流をくり広げた。

また、今回のポスターセッションで産業政策の実績を発表したのは尼崎市、大阪市経済局、大阪市西淀川区、高槻市、大東市、東大阪市、八尾市、堺市、岸和田市、大阪府の10自治体であったが、発表者はもとより、多くの参加者がこうした「場」による人とアイデアの交流の必要性を語っていた。大阪大都市圏では、ここ2～3年、工業を重視する自治体が増え、政策の交流・連携を求める気運が圏域的に生まれている。その意味でタイムリーな取組になったといえよう。今後、大学発の産官学連携として3年計画の研究を行い、大都市圏における連環型産業政策の方向をまとめる予定である。

■三浦純一(都市研究プラザ研究員)



ポスターを前に交流するポスターセッション参加者

A symposium entitled "New Perspectives on Regional Industrial Policy: Towards Regeneration of Industrial Clusters in the Osaka Metropolitan Area" was held on September 4, 2009, at the Sugimoto Campus of Osaka City University. Recently local governments in the area have rediscovered the role of manufacturing industries in the regional economy. So far, however, government action has concentrated on intra-sector issues rather than on inter-sector synergies. University professors and government officials discussed policy dilemmas and searched for a new kind of effective policy.